

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書(発行者) | 補助教材(発行者) |
|--------------------------------------|---|--|---|---|
| 家庭・家庭基礎 | 1年 | 2 | 高等学校 改訂版 家庭基礎 持続可能な未来をつくる (第一学習社) | 改訂版 家庭基礎学習ノート (第一学習社) Life Design2026 資料+成分表+ICT (実教出版) |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 | | | |
| 授業の進め方 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書・資料集やワークシートを利活用し授業を進め、人が生きてくうえで必要な家庭生活に係る基本的な知識を身につける。 体験的学習や実習・実験を通して自立にむけた技能を身につけるとともに、現状の生活課題などを自ら発見し、解決する。 グループで話し合い、意見をまとめて発表し、情報を共有しながら、課題解決にむけて取り組む。 | | | |
| 評価の観点と方法 | <ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をもとに、定期考査や授業(グループ学習、実習等も含む)の態度、ワークシート・課題レポート・ホームプロジェクト・作品製作などの提出物に生徒自身の自己評価を踏まえ総合的に評価する。 | | | |
| 学期 | 単元・学習項目 | | 学習内容・到達度目標 | |
| 1 年 間 の 授 業 内 容 | 「家庭基礎」を学ぶにあたって 1章 これからの生き方と家族 1節 生涯の生活設計 1. 生涯発達する自分一人と人とのつながりのなかで 2. 青年期を生きる 3. 働くことについて 4. 生涯で豊かな人生に向けて 2節 家族・家庭と社会とのかかわり 1. 家族・家庭・世帯 2. 家族・家庭の働き 3. 変化する結婚動向と少子化の動向 4. 結婚と変化する家族 5. 家族に関する法律—家族と法 夫婦 6. 家族に関する法律—親子、扶養、相続 学校家庭クラブ活動 2章 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達 1. 次世代をはぐくむ 2. 命のはじまり 3. 乳幼児の体の発達 4. 乳幼児の心の発達 2節 子どもの生活 1. 親と子のかかわり 2. 乳幼児の生活と安全 3. 子どもの成長と遊び 3節 子育て支援と福祉 1. 地域社会と子育て支援 2. 未来を担う子どもの権利 3章 充実した生涯へ 1. 超高齢社会を生きる 2. 人生のなかで高齢期をとらえる 3. 高齢期の生活 4. 高齢社会を支えるしくみ 5. これからの高齢社会を担う 6. 充実した高齢期へ 4章 とともに生きる 1. 社会保障制度と社会的連帯 2. 人の多様性と社会参加 3. 自分らしい生き方と共生社会 ホームプロジェクトの実践 (実践例の紹介および実習を含む) | | <ul style="list-style-type: none"> 学習の意義や内容、学習の方法、評価の方法を理解する。 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深める。 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活および職業生活について考察し、生活設計を工夫する。 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家庭・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察する。 学校や地域生活等の充実・向上をめざし、クラスやグループで実践的活動をする。 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。 子供を生き育てることの意義について考えるとともに、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察する。 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付ける。 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 家族や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察する。 自分の身のまわりの生活課題を見つけ、その解決を目指して夏休みに調査・研究・実践し、レポートを作成する。 | |
| | 2 学 期 | ホームプロジェクトの発表 5章 食生活をつくる 1節 人の一生と食事 1. 私たちと食事 2. 健康に配慮した食生活 3. 食生活の変化 4. 持続可能な食生活 5. 食生活の文化 2節 栄養と食品 1. 人体と栄養 2. 炭水化物 3. 脂質 4. たんぱく質 5. 無機質(ミネラル) 6. ビタミン 7. その他の食品と健康増進のための食品 3節 食生活の安全のために 1. 食品の選択と保存 2. 食品の安全と衛生 4節 食生活をデザインする 1. 何をどれだけ食べればよいのか 2. 食品には何がどれだけ含まれているか 3. 献立作成の手順 4. 調理の基本—調理の流れ、包丁の使い方、調味 5. 調理の基本—調理法、配膳、マナー 調理実習 | | <ul style="list-style-type: none"> 「ホームプロジェクト」の活動を通して得た成果を工夫して発表する。 ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫する。 |

| | | |
|----------------------------|---|---|
| | <p>6章 衣生活をつくる</p> <p>1節 人の一生と被服</p> <p>1. 私たちと衣生活 2. 被服の機能—保健衛生上の機能 3. 被服の機能—社会生活上の機能 4. 被服の選び方</p> <p>2節 被服材料</p> <p>1. 被服の素材—繊維の種類と特徴 2. 被服の素材—布の種類と被服素材の性能</p> <p>3節 被服管理</p> <p>1. 洗濯方法と表示 2. 洗濯のしくみ 3. 被服の手入れと保管 4. 被服を長く大切に使うために</p> <p>4節 これからの衣生活</p> <p>1. 衣文化の継承と創造 2. 持続可能な衣生活</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫する。 |
| <p>3</p> <p>学</p> <p>期</p> | <p>7章 住生活をつくる</p> <p>1節 人の一生と住まい</p> <p>1. 私たちと住まい 2. 住文化の継承と創造 3. 平面図の活用 4. 長く住み続けるために 5. 生涯を見通した住まいの工夫</p> <p>2節 住生活の計画と選択</p> <p>1. 快適で健康な住まい 2. 安全で安心な住まい 3. 持続可能な住まい 4. 住まいと地域社会のかかわり</p> <p>8章 経済生活をつくる</p> <p>1節 私たちの暮らしと経済</p> <p>1. 人生とお金 2. 家庭の収入・支出とリスクへの備え 3. 持続可能な生活と将来への準備</p> <p>2節 消費生活の自立に向けて</p> <p>1. 契約と意思決定 2. 多様化する支払い方法 3. 消費者問題 4. 消費者の自立と行政の支援</p> <p>第3節 持続可能な社会をめざして</p> <p>1. 消費生活と地球環境 2. 消費者市民社会をめざして</p> <p>被服実習</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関りについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫する。 ・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解する。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察する。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。 ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫する。 ・被服製作における基礎的な知識・技能を身に付ける。 |